平成30年５月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第645号

林業福島

No. 645

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

5
2018

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■パパとふたり

第47回
全国林業後継者大会に寄せて

全国林業研究グループ連絡協議会
会　長　齋　藤　　正

we　love　forest．福島県林業者の皆さん、こんにちは！

私は、この四月より全国林業研究グループ連絡協議会会長を務めさせて頂くことになりました、齋藤正でございます。田爪前会長の思いを引き継ぎ、より良い林業環境を構築するために頑張ってまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、福島県において昭和四五年五月、第二一回全国植樹祭と並行して、「全国林業後継者のつどい」が開催されました。この行事がまさしく、今日の「全国林業後継者大会」の前身であります。そして今回再び「全国林業後継者大会」が四八年の長き年月を経て、震災の復興まっただ中の福島県において開催することに、林業へ対する熱い思いだけではなく、震災で被災された皆さんの力強い復興への強い思いを感じるところであります。

今回の大会を開催するに当たり、主催者の一人として、自然豊かな美しい福島の春の息吹のような、清々しく、希望に満ちあふれた大会にしてまいりたい所存でございます。

私たち林業者の経営環境は大きく変化をしてまいりました。また、私たちが実践的に活動している森林に対する国民の公益的機能などへの期待と責任は増してきております。このような中、「森林環境譲与税（仮称）」が来年より始動します。全国で盛んに説明会などが開催されており、福島の皆さんも多くの方が参加されていると思います。この制度は、少子高齢化などによる経営放棄林など整備の困難な森林を、やる気がある林家等が代わって施業を行えるものです。大切なのは、今まで国において森林整備を目的とした新たな税を導入することはできなかったのですが、今回多くの国会議員の先生方のお力添えも頂き、ようやく実現できたことです。私たちは、ご尽力頂いた皆様に感謝するとともに、国民に対して、「森林整備」「公益的機能向上」「地方創生」などで、しっかりとした成果を出していかなくてはならないと考えております。それには、中山間地域で活動している私たち林業者が「やる気」をもって立ち上がり、動き出すことが必要不可欠です。こうした動きが仕事を作り、「地方創生」の一助となっていくものと思います。

今回の大会は、この福島に全国より林業を実践している仲間が集結いたします。福島の自然と復興のパワーの中で、多くの課題に対して大いに議論を重ねて、情報を交換し、絆を強くしていきたいと考えております。

結びに、今回の大会をご準備頂いております、福島県を始め多くの方々に深く感謝を申し上げるとともに、大会の成功と震災そして原発事故被害に遭われた多くの方々にお見舞いと御冥福、そして力強い復興を祈念申し上げます。

《もくじ》

とびら
第47回全国林業後継者大会に寄せて
全国林業研究グループ連絡協議会会長　齋　藤　　正… 1
全国植樹祭のサテライト会場とPR会場へお越しください！… 2
林業研究センターだより…… 3～4
平成30年度「緑の募金」街頭キャンペーン… 5
「花と緑いっぱいのふるさとづくりプロジェクト」が
南相馬市でゴール …… 6
森や木、林業に関心のある女性に向けた
イベントを開催しました…… 7
普及指導員通信…… 8
平成29年度福島県きのこセミナーを開催 … 9
苗協だより…… 10
木に触れて豊かな心を育む「木育」②… 11
木材市況・ふくしま東西南北…… 12
はなしのひろば・お知らせコーナー…… 13

全国植樹祭のサテライト会場とPR会場へお越しください！

第六九回全国植樹祭福島県実行委員会事務局
（福島県農林水産部全国植樹祭推進室内）

第六九回全国植樹祭まで残り一カ月ほどとなりました。多くの皆さんが全国植樹祭を楽しめるように、県内各地にサテライト会場とPR会場を設置します。各会場では、式典の中継のほか、ご当地グルメや木工体験コーナー、ステージイベントを設けています。ぜひお越しください。

◆サテライト会場◆

～ふくしま県民の森　フォレストパークあだたら～　【十時～十六時】

○参加者記念植樹
○式典会場との二元中継
○ステージイベント「世界一の口笛演奏（髙木満理子 氏）、お笑いステージ（ぺんぎんナッツ）」　ほか

※SUPER CENTER PLANT-5大玉店発の無料シャトルバスをご利用ください。（九時三〇分～）

◆PR会場◆

～福島駅東口駅前広場～　【十一時～十六時】
○MANAMIミニライブ
○「飯坂太鼓」の演奏　ほか

～郡山駅西口駅前広場～　【十一時～十六時】
○真灯かなた（元宝塚歌劇団星組）ミニライブ
○福島ファイヤーボンズチアダンスパフォーマンス　ほか

～白河駅前イベント広場～　【十時半～十六時】
○ダルライザーステージショー
○塙工業高校太鼓部による演奏　ほか

～会津総合運動公園～　【十時半～十六時】
○民謡「会津磐梯山」等ミニライブ
○白虎隊剣舞　ほか

※右記会場のほか、南相馬市の「さくらホール」と「ゆめはっと」でも式典の中継を行います。
※各会場とも、申込不要・参加無料です。苗木のプレゼントもあります。

林業研究センターだより

平成29年度の「普及に移しうる成果」

ナメコ露地栽培における敷材別セシウム137汚染低減効果
ナメコ試験地

林業研究センター企画情報部
主任研究員　山　田　寿　彦

林業研究センターでは、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、通常課題に加えて、放射性物質関連課題に関する試験研究を行っています。これらの課題の成果については、毎年、農業振興課が「普及に移しうる成果」として、ホームページで公表しています。平成二九年度については、放射性物質関連課題から八成果の「放射線関連支援技術情報」をとりまとめました。ここでは、これらの概要についてお知らせします。なお、詳細については農業振興課ホームページをご覧下さい。

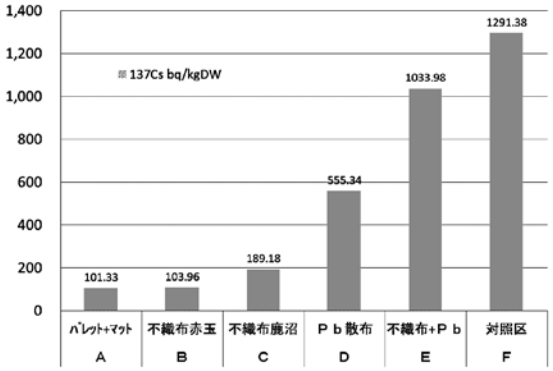
平成二九年度放射線関連支援技術情報

萌芽枝内の放射性セシウムの分布傾向

萌芽枝の時期別・部位別の放射性セシウムを測定したところ、根元部より梢端部へ行くほど濃度が高い傾向がみられました。

ナメコ露地栽培における敷材別セシウム１３７汚染低減効果

ナメコ露地栽培において敷材による土壌からの放射性物質の汚染低減効果を検討しました。その結果、客土等の効果が高くなりました。その中でも赤玉土の効果が鹿沼土よりも高くなりました（図―１）。



図－１　ナメコ露地栽培における敷材別セシウム137汚染低減効果
敷材別子実体放射性物質濃度
＊Pb：プルシアンブルー溶液（セシウムソープ100倍液）

野外ほだ場空間由来ほだ木汚染状況の推移

野外ほだ場からの追加汚染実態と汚染経路を把握するため、県外産無汚染ほだ木を設置し追加汚染の状況を調査しました。その結果平成二八年より平成二九年の方が放射性物質濃度が高くほだ場からの汚染が継続していることが示唆されました。

施業によるタケノコの放射性物質濃度の低減について

竹林への施業によるタケノコの放射性セシウム濃度低減効果について調査しました。その結果、平成二三年から平成二五年に施業した試験区において施業をしていない区に比べてタケノコのセシウム１３７濃度は低くなりました（図―２）。

スギ樹皮放射性セシウム濃度の簡易推定技術の開発

民有林からの材の搬出にあたっては、樹皮の放射性セシウム濃度の確認が必要です。本試験においては、ＧＭ管式サーベイメーターを利用した現地における簡易推定法を開発しました（図―３）。

コナラ原木の部位別のセシウム１３７濃度分布

コナラをきのこ原木として安全に利用するためにコナラの汚染状況を調査しました。その結果、セシウム１３７濃度は外樹皮が最も高く、ついで内樹皮、辺材、心材の順で低くなりました。イメージングプレート

画像で確認すると、樹皮の溝に放射性物質が多く存在していました（図―４）。

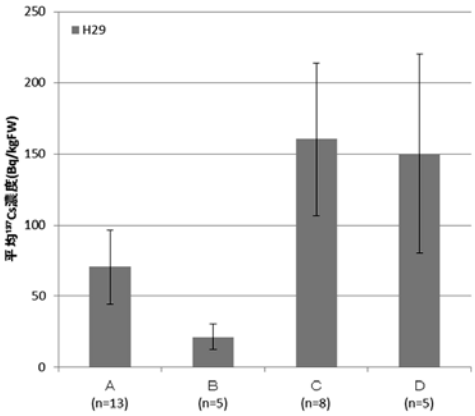
森林施業に伴う放射線量の経年変化について

森林施業を行った森林の空間線量率等について経年調査しました。その結果、空間線量率は目立った変化はありませんでした。土壌についてはセシウム１３７が〇―五センチメートルの層に滞留していると考えられました。またチップ敷設により空間線量率が減少しました。

福島第一原子力発電所事故後に林地に植栽した樹木の放射性セシウムの移行について

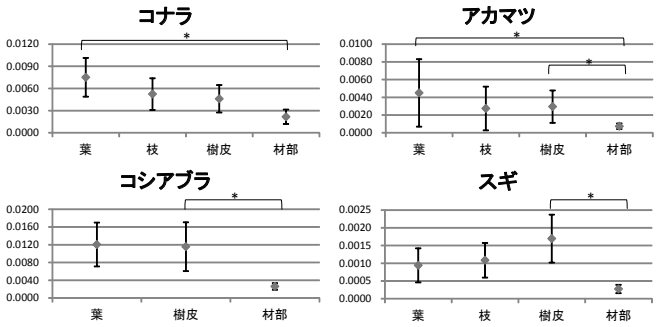
落葉広葉樹林内に放射性セシウムに汚染されていない苗木を植栽し部位別に放射性物質の移行について把握しました。その結果、樹木のセシウム１３７の移行は、他の部位よりも材部が低くなる傾向が見られました（図―５）。

図－３
スギ樹皮放射性セシウム濃度の簡易推定技術の開発
サーベイメーターによる樹皮の放射性物質測定状況



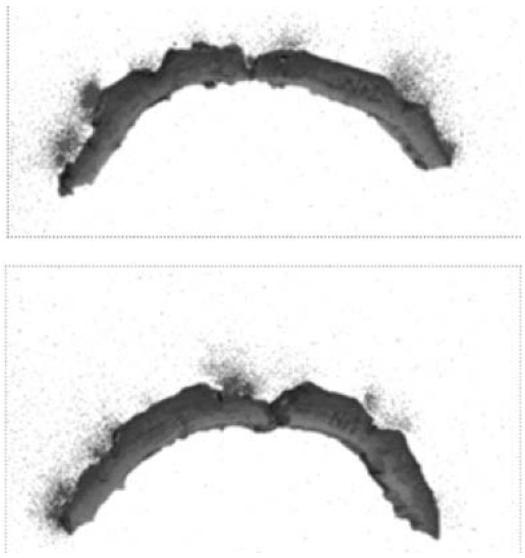
	平成23年12月	平成24年12月	平成25年12月	平成28年12月	備考
A	落葉除去 抜き切り	落葉除去	落葉除去	施肥(※1)	※1　N:P:K=8:8:8化成肥料 40kg/a散布
B	落葉除去 抜き切り 施肥(※2)	落葉除去 施肥(※2)	落葉除去 施肥(※2)		※2　ケイ酸カリウム 20kg/a散布
C	抜き切り				
D					無施業区

図－２　施業によるタケノコの放射性物質濃度低減について（平成29年）
各試験区の施業状況と各試験区のタケノコのセシウム137濃度



※エラーバーは標準偏差を示す。
※＊はSteel-Dwassによる多重比較の結果を示し（$p < 0.05$）、何も表示がないものは有意差がなかったことを示す。

図－５　福島第一原子力発電所事故後に林地に植栽した
樹木の放射性セシウムの移行について
部位別セシウム137の移行係数



図－４
コナラ原木の部位別のセシウム137濃度分布
イメージングプレート画像による放射性物質の分布状況

緑の募金コーナー
No.201

平成30年度
「緑の募金」街頭キャンペーン

緑化運動標語
「育てよう　植えて育てて　緑の輪」

平成30年４月21日(土)、JR福島駅前周辺で「緑の募金」街頭キャンペーンを実施しました。

この街頭キャンペーンは、毎年、春季募金運動推進期間（４月１日～５月31日）に、福島市緑化推進委員会を中心に当協会と共催で実施しています。

市内の荒井小、岡山小、佐倉小、佐原小、土湯小の５つの小学校の緑の少年団をはじめ、木幡浩福島市長、佐竹浩県農林水産部長、香月英伸福島森林管理署長、佐藤新太郎県北農林事務所長、齋藤卓夫県森林・林業・緑化協会長ら総勢約150名が参加し、炎天下のなか街行く人達に元気な声で募金を呼び掛けました。

昨年に引き続き、今年６月に開催される全国植樹祭に向けて、福島県オリジナルで製作した緑の少年団の制服を参加した少年団に着用していただき、募金活動を行いました。

小さなお子さんからご年配の方まで老若男女問わず、募金に協力していただいた多くの皆さん、本当にありがとうございました。

元気に募金を呼び掛ける緑の少年団

平成30年度　緑の募金運動

１．募金目標額　70,000,000円
２．募金運動の期間　４月１日～５月31日（春の新緑シーズン）
　　９月１日～10月31日（秋の紅葉シーズン）
３．事業内容　⑴　森林の整備　県民参加の森林づくりの推進、緑化木配布等
　　⑵　緑化の推進　緑の少年団の育成、地方植樹祭・育樹祭の開催、花いっぱい運動、緑の写真コンクールの実施、学校緑化活動促進事業、全国植樹祭に向けて県民運動の普及啓発等
４．お問い合わせ先　**公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会（緑化推進局緑化推進課）**
　　〒960-8043 福島市中町5-18　福島県林業会館内
　　TEL：024-524-1480　FAX：024-521-3246

「花と緑いっぱいのふるさとづくりプロジェクト」が南相馬市でゴール

―農林中央金庫　福島支店―

平成二九年四月に浪江町からスタートした「花と緑いっぱいのふるさとづくりプロジェクト」が平成三〇年三月三〇日に南相馬市でゴールを迎え、その記念セレモニーを同市ひがし生涯学習センターで実施しました。

このプロジェクトは、(公社)福島県森林・林業・緑化協会、福島県森林組合連合会、福島民友新聞社、当金庫が連携し、道の駅や役場庁舎など、県内全五九市町村の人が集まる場所に県花のネモトシャクナゲ、各市町村の花木・花苗を植えた木製花壇を設置する取組です。同市で六月十日に開催予定の第六九回全国植樹祭の取組とも連動しながら、この木製花壇の設置を通じて「花と緑」があふれる福島県を県内外に広くアピールしていくことを目的としています。

記念セレモニーには南相馬市の門馬市長、県森林・林業・緑化協会の渡邉常務理事、県森林組合連合会の武澤代表監事、福島民友新聞社の五阿弥代表取締役社長、当金庫福島支店の山田副支店長が出席したほか、同センターの職員や地元の子どもたちにも参加いただきました。

セレモニーの中で、主催者側から「花壇設置により地元愛を育むお手伝いができれば」(五阿弥社長)、「プロジェクトに協力いただいた関係者に感謝」(武澤監事)、「福島の花と緑いっぱいの姿を県内外に届けたい」(山田副支店長)との言葉が述べられ、寄贈を受けた門馬市長からは「全国植樹祭とも連携しながら、福島の復興をアピールしていきたい」との挨拶をいただきました。同プロジェクトと連動して実施してきた第六九回全国植樹祭関連イベントの「森林とのきずなづくり植樹リレー」ブナコースも同日にフィナーレを迎え、県緑化協会の渡邉常務より門馬市長へバトンが手渡されました。セレモニーの最後では、同センターの浜名所長が「花いっぱい街づくり宣言」を行いました。

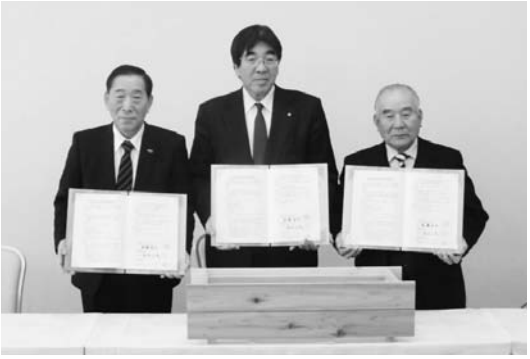
ネモトシャクナゲへの土かけ

当金庫は、森林・林業の振興や緑化推進の面から復興支援の取組を強化していくために、平成二八年十二月に県森林・林業・緑化協会および県森林組合連合会と三者で復興支援に関する連携協力協定を締結し、同プロジェクトはその協定に基づく第二弾プロジェクトとして実施したものです。

なお、これまで協定プロジェクトとしては、第六九回全国植樹祭の開催を応援することを通じて福島の復興に貢献していくことを目的に、協定締結先の二団体を含む県内林業関係団体（十団体）や県内森林組合（十六組合）とも連携しながら、同植樹祭会場等で使用する木製プランターカバー、ベンチ等の木製品や協賛金の寄贈を実施しています。

引き続き当金庫は福島の森林・林業の復興を応援してまいります。

記念写真（左から武澤監事、五阿弥社長、門馬市長、山田副支店長、渡邉常務）



平成28年12月の三者協定締結式
（左から秋元県森連代表理事会長、後藤金庫常務理事（当時）、齋藤県緑化協会会長）

森や木、林業に関心のある女性に向けたイベントを開催しました

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

平成三〇年三月十八日(日曜日)に、森や木に関心のある女性に向けたイベント「木と愉しむ休日～大杉・夫婦杉見学とクラフト作り～」を開催しました。昨年度まで、福島県林業会議のご協力のもと「福島県林業女子会(仮称)設立準備会」が活動しておりましたが、県内にいくつかの林業女子会が設立されたことから、準備会は解散し、協会として林業女子会への支援や女性に向けたイベント等を実施してまいります。

風は冷たかったものの好天に恵まれ、はじめに二本松市の「杉沢の大杉」へ。福島県もりの案内人の二名にご案内いただき、県内で最も大きいといわれる幹の周りを歩きながら、その特徴や地元との関わりについて学びました。樹齢六五〇年とも一〇〇〇年とも言われる大杉は、周辺の杉とは異なりウラスギ系であるらしく、幹の太さはもちろん、しなやかに広く張り出した枝ぶりにも迫力があり圧倒されます。幹を囲むように木道が設置され、周囲には花壇や公園も整備され、地元の方々が敬意と親しみを持って大杉を守り、共に暮らしている様子が伝わるようでした。

続いて、バスで国道三四九号を南下して小野町の「諏訪神社の翁杉・媼杉」へ。車窓から望む里山や、山あいから市街地への景色の移り変わりを眺めながら、案内人の方から杉や木・森と人々との関わり等についてのお話を聞き、絵本「おおきな木」の朗読をしていただきました。心に染み入るような語り声が目の前に広がる風景と重なり、はるか昔から続く木と人との関係に思いを馳せる癒しの時間となり、参加された方もくつろぎながら耳を傾けていました。

諏訪神社では、翁杉・媼杉を見学しながら奥の境内へと進み、そこから杉を眺めつつ杉と人々との暮らしの歴史や、小野町周辺にある大木について案内人のお二人からお話を伺いました。樹齢一二〇〇年と言われる夫婦杉は、空に向かってまっすぐと力強く伸び、まだまだ木の勢いがあるとのこと。杉沢の大杉とはまた違った佇まいで、皆さん興味深く見学している様子でした。

ここで案内人の方と別れ、バスで一〇分ほどの「カフェ・ビー」へ。花や木をあしらった温かな雰囲気の店内で美味しいランチを頂き、その後クラフト作りを行いました。今回作ったのは、蜜蝋のアロマクリームとミニチュアフェイクガーデン。参加された皆さんは、和やかに談笑しながらクラフト作りを楽しみ、あっという間に帰路に着く時間を迎えました。

ご協力くださった皆様のおかげで、楽しく充実した春の一日となりました。参加された方からも「楽しかった」「また参加したい」とのお声をいただき、事務局も安堵しております。今後も、木や森・林業への関心を広げるきっかけ作りとなるよう、女性に向けたイベントを開催してまいりますので、皆さまのご参加をお待ちしております。

カフェの前で記念写真、皆さんいい笑顔です！

杉沢の大杉を見学

バスの中で案内人の方からお話を聞きました

諏訪神社の翁杉・媼杉を見学

ミニチュアフェイクガーデンを制作中

普及指導員通信

林業担い手の創出に向けた取組について

福島県県中農林事務所
林業普及指導員　高　橋　宏　成

現在、県内ではふくしま森林再生事業を始めとする森林整備が活発に行われており、素材生産量や木材の需給量も増加傾向にあります。

県中地区での平成27年の素材生産量は県内の約２割を占める15万８千㎥で、前年から10％ほど増加しており、森林整備面積も震災前の水準には及ばないものの、平成28年度で1,589.6haと県内方部別で最も多い実績となっています。

このような状況の中、管内の林業事業体等は新規雇用者の確保に努めているところですが、事業量に対する労働力不足が慢性化しているのが現状であり、中山間地域における地場産業の活性化と森林再生のためには、林業の担い手確保は喫緊の課題といえます。

そこで、次世代を担う高校生達に林業や木材産業の魅力を正しく伝え、就業先の選択肢としてクローズアップしてもらうため、緑の青年就業推進事業により森林整備や木材加工の現場を体感してもらうバスツアーを企画し、平成29年11月20日に県立岩瀬農業高等学校環境工学科１年生の37名を対象に実施しました。

ツアーの行程は次のとおりです。

①　高性能林業機械を活用した素材生産現場の見学（現場提供：株式会社アメリカ屋）
②　大規模木造建築を可能とする大断面集成材の製造現場見学（現場提供：藤寿産業株式会社）
③　数値制御による木質建築材料のプレカット工場見学（現場提供:福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合）

現場では、各事業者から熱心な説明が行われ、生徒たちは初めて目にする林業機械や木材加工機を興味深く見学しており、森林保全や林産資源利用の社会的な意義を含め、森や木を相手にした「環境に貢献する仕事」への理解が深まったのではないかと思います。

特に、森林整備の現場では機械化された施業や作業員（女性を含む）の出で立ちをスマートに感じてもらえたと思います。また、生徒からは作業工程の詳細や必要な資格などに関する質問もあり、業務実態の啓発には有効であったと考えます。しかし、ツアーを通して引率の先生と話をしたところ、各事業体の具体的な求人数、福利厚生の内容、給与体系、将来の展望など、職業選択に有用な具体的かつ幅広い情報提供が林業では不足しているとの指摘を受けました。

「林業の成長産業化」というキーワードが定着しつつありますが、就業予備軍に対し、なぜ「成長産業」になりうるのか、そして現実はどうなのか、といったことを客観的な情報に基づいて提示することが肝要だと実感しましたので、今後は、このような目線を念頭に置いて担い手対策に取り組んでいきたいと考えます。

高性能林業機械を使った伐木・造材の工程を間近で体感

大断面集成材の製造工程を見学

きのこセンターだより

平成29年度福島県きのこセミナーを開催

㈳福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター
（TEL 024-947-2188）

平成29年度福島県きのこセミナーの会場（郡山市）

平成三〇年二月九日（金）、福島県農業総合センターにおいて、（公社）福島県森林・林業・緑化協会主催で平成二九年度福島県きのこセミナーを開催しました。きのこ生産者、県、市町村、各種団体等から約八〇名の皆様が参加され、熱心に受講されていました。東京電力福島第一原子力発電所の事故から七年を迎える本年、本県のきのこ産業も復興・再生から新たな飛躍へと一歩踏み出す「実行」の初年としたく、今回のセミナーのテーマを「新たな飛躍へ」としました。

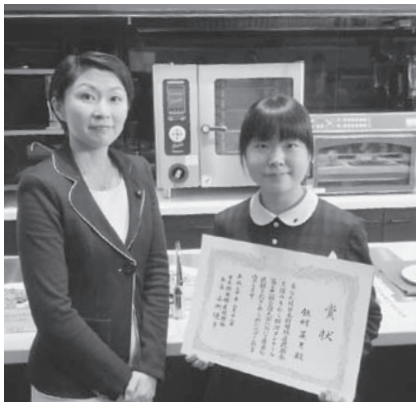
まず、「食品リスクを考える～放射性物質をテーマに～」と題して、消費者庁消費者安全課食品安全班政策企画専門職の井河和仁氏より講演をいただきました。食品のリスクについての評価と管理、基準値の設定方法やモニタリング検査の状況等について、分かり易く説明していただきました。続いて、「震災からの復興状況と今後―原木しいたけ復活にかけて―」と題して、昭和村の野尻地区しいたけ生産組合・青木農園の青木秀之氏より講演をいただき、更に、「循環型きのこ栽培を目指して！」と題して、郡山市の有限会社鈴木農園の鈴木清美氏より講演をいただきました。お二方は、後継者として跡を継がれるまでの経緯、現在取り組まれている県外イベントへの参加や収穫体験、食育事業への参加等のＰＲ活動についてお話しされ、今後の後継者問題の参考となる大変興味深い内容でした。最後に、福島県林業振興課主任主査の古川成治氏より、「福島県におけるきのこの放射性物質検査状況」「原木しいたけ栽培再開のための実証試験」という演題で、講演をいただきました。この中で、県から当協会へ委託された「原木しいたけ露地栽培実証業務」について、平成二七年度及び平成二八年度調査結果からの考察等が説明されました。

全体の質疑においても、セシウム以外の基準値や風評被害に対する消費者庁の対応等について、活発な意見交換が行われ、非常に有意義な時間となりました。今後とも、更なる復興・再生にむけて、情報発信をしてまいります。

きのこ振興センター

第三一回きのこ料理コンクール全国大会で入賞！

平成三〇年三月十三日（火）、服部栄養専門学校（東京都渋谷区）で行われた「第三一回きのこ料理コンクール全国大会」において、郡山女子大付属高等学校食物科三年の飯村菜月さんが福島県代表として出場し、日本特用林産振興会長賞と日本椎茸農業協同組合連合会長賞を受賞しました。飯村さんは、平成二九年十一月二三日（木・祝日）に、当協会主催で開催した「第二回福島県きのこ料理コンクール」において、湖南産しいたけや郡山産ブランド米「あさか舞」を使用した地元色豊かな作品「愛ＬＯＶＥ福島湖南産しいたけ米粉焼き!!」を出品し、見事最優秀賞に輝き、全国大会でもその力を遺憾なく発揮されました。



小渕会長より表彰を受ける飯村さん

苗協だより

林木育種事業60周年記念シンポジウム開催

福島県農林種苗農業協同組合

昭和三二年に林木育種場が設置されてから、平成二九年度をもって林木育種事業六〇周年を迎えたことから、林木育種事業六〇周年記念シンポジウムが開催されましたので概要を紹介します。

シンポジウムの会場

平成三〇年二月十六日（金）に東京都江戸川区の木材会館において、関係機関等二〇〇名を超える参加者が集い、「豊かで多様な森林の恵みを未来につなげる林木育種」をテーマに開催されました。

シンポジウムでは、森林研究・整備機構理事長　沢田治雄氏による主催者挨拶の後、林野庁森林整備部長　織田央氏より来賓挨拶がありました。

東京大学教授の井出雄二氏から「再造林時代の林木育種」をテーマに基調講演が行われました。

講演では、――林木育種は、持続的林業経営を種苗の側面から担保する技術であり、戦後の拡大造林では、寒地性樹種の育種に着手した。

近年では、国産材の利用を促す材質育種や拡大するマツ材線虫病に対する抵抗性種苗、花粉症対策でも行き着くとこは、対応を育種に求め、林木育種は林業の状況に合わせ着実に成果を上げた。

今後は、人工林の量的緩和による森林づくりの視点に立った、新しい林業を生み出すような種苗が必要――と述べられました。

林木育種センター・育種場からは、成果発表として、「これまでの品種開発の取組み」「林木育種の次世代に向けて」「木材ジーンバンク事業の成果と今後の方向」等、各研究分野の研究者から七課題について発表がありました。

最後のパネルディスカッションでは、「豊かで多様な森林の恵みを未来につなげる林木育種」をテーマに、岐阜大学教授の向井譲氏をコーディネーターに、五名のパネリストの皆様（全国林業試験研究企画協議会会長　綱田克明氏、東京大学院准教授　後藤晋氏、全国山林種苗協同組合連合会会長　岸紘治氏、林木育種センター育種部長　星比呂志氏、林野庁研究指導課長　森谷克彦氏）により、それぞれの立場から林木育種事業の関わりに期待すること、育種技術の普及に関することなど、今後の林木育種のあり方などについて幅広い視点から議論されました。

岸会長からは、林木育種センターが行ってきた「林木育種事業」は、その原点である「種子」や穂木の価値を高める大切な事業であるして、とりわけ

- 精英樹の選抜では〝スギ、ヒノキの約七割が「育種苗」〟
- 松枯れ対策では〝マツノザイセンチュウ抵抗性品種や雪害に強い品種の開発〟
- 花粉症対策では〝無花粉や花粉の少ない品種の創設〟

など、地道な弛まぬ努力の積み重ねの成果であり、今後これらの研究成果を更に発展させるとともに、生産量が増加しつつあるコンテナ栽培に適した品種の開発等への期待と要望を発言されました。

パネルディスカッション

木に触れて豊かな心を育む「木育」②

東京おもちゃ美術館

林業福島事務局

「木育」シリーズ二回目は、長年、木のおもちゃを通じて木育活動に取り組んでこられた「東京おもちゃ美術館」を紹介します。

「東京おもちゃ美術館」は、東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」から徒歩約七分の交通利便性が高い場所にあり、施設は、昭和十年に建てられた旧四谷第四小学校の校舎を活用しています。

施設外景（入館口）

また、赤ちゃんからお年寄りまでが木に触れて、木と遊び、木工を体験し、豊かな出会いと楽しみを有するミュージアムを目指し、十一の教室にテーマに沿っておもちゃが集められています。

「東京おもちゃ美術館」の運営は、芸術と遊び、おもちゃによって親子など多世代交流を促す活動を長年継続している「認定ＮＰＯ法人芸術と遊び創造協会」が行っており、次のような支援活動も実施しています。

○グット・トイの選定

良質なおもちゃ選びの指針となるよう三〇年以上続けられており、最も国産材を有効活用した作品には、林野庁長官賞が授与されます。

○木育キャラバンの実施

トラックに満載された木のおもちゃが全国各地（年間約五〇箇所）をめぐり、日本中の多くの親子に木のおもちゃ・遊びとの出会いをつないでいます。

○ウッドスタート宣言

地元で生まれた赤ちゃんに、地元木工職人が制作した木のおもちゃをプレゼント、木育による子育て支援に取り組む自治体の事業です。既に一県三九市区町村で宣言されており、本県では、飯舘村、国見町及び塙町の三町村で宣言しています。

○全国姉妹おもちゃ美術館の設立支援

おもちゃと遊びの文化を全国に広めるため、地域ならではの自然と文化の魅力あふれる姉妹おもちゃ美術館の設立を支援しています。国頭村（沖縄県）に続き、本年度は長門市（山口県）、由利本庄市（秋田県）で設立が予定されています。

おもちゃの森

ごっこハウス

ごっこファーム

施設内部（旧小学校を活用しています）

売店（グット・トイも販売されています）

平成三〇年一月三〇日に「東京おもちゃ美術館」を視察しました。開館時間（十時）には多くの親（主に母親）子が入館し、中には外国人の親子や先生に引率された小学生もいました。各教室には、おもちゃの森や赤ちゃん木育広場などテーマに沿って子どもが関心を寄せる多くの遊具が集められており、子どもたちは道具を手に取って熱心に（なりきって）遊んでいました。各教室には「おもちゃ学芸員」が配置され、問い合わせには丁寧な説明をいただきました。幼少期から木に触れ、木で何かを創る喜びを経験すると、創造性や感性が豊かに育まれるものと実感しました。

木材市況

一月の原木市場への入荷状況は、前月比七パーセント増（前年比二パーセント増）の二八、四六七立方メートルとなっている。

販売量は、前月比一五パーセント増（前年比四パーセント増）の二九、二九一立方メートルとなっている。

二月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（２月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	9（8～10）	0	（0～0）		9（8～9）	0	9（8～10）	0
		10～14		並		12（12～13）	0	（0～0）		12（11～12）	1	12（11～13）	0
	中	14～22	3.00	並	スギ	13（12～13）	0	11（11～11）	0	12（12～12）	0	12（11～13）	0
				並	ヒノキ	20（15～24）	0	（0～0）		15（15～15）	0	17（15～24）	0
			6.00	並	スギ	16（15～17）	0	11（10～12）	0	16（16～16）	0	15（10～17）	0
				並	ヒノキ	30（25～35）	0	（0～0）		21（18～24）	1	25（18～35）	0
		20～28	3.65	並	スギ	12（12～12）	△3	11（10～12）	0	12（12～12）	0	12（10～12）	△1
			4.00	並		12（12～13）	0	12（12～12）	0	13（12～15）	1	12（12～15）	0
			4.00	並	アカマツ	9（7～11）	0	（0～0）		10（9～10）	0	9（7～11）	0
			1.80	並		8（5～10）	0	12（12～12）	0	7（6～7）	0	8（5～12）	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		28（28～28）	0	28（28～28）	0
				並	米マツ	（0～0）		32（32～32）	2	30（29～30）	0	30（29～32）	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		28（27～28）	0	28（27～28）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
				並	カラマツ	（0～0）		16（16～16）	0	26（25～27）	0	23（16～27）	0
パルプ用材				並	マツ	7（7～7）	1	（0～0）		5（5～5）	0	6（5～7）	0
				並	広葉樹	9（9～9）	0	（0～0）		6（6～6）	0	8（6～9）	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	（0～0）		7（6～9）	0
	13～14		並	カラマツ	（0～0）		8（7～8）	0
	16以上		並	カラマツ	（0～0）		10（9～11）	0

注）1．前月差の△印は値下りを示す。
2．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
3．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

～十年目の広葉樹材集め～

福島県南会津農林事務所
林業課　鈴木比良

ここ数年、広葉樹板のコレクションにはまってしまい、少し困った状況になっています。はじめは、無垢板が好きで、デッキをクリ板で造ることを夢に長さ二メートルのクリ丸太を購入し、板に加工して桟積み、小屋で乾燥していたのですが、テーブルやカウンターを自分で伐採・運搬・製材・乾燥・加工しようと思うようになりました。自己所有のスギ・カラマツ林を自ら間伐していることもあり、胸高直径五八センチメートルのミズナラを伐採し、製材工場に持ち込み、製材して乾燥しているうちに、市場から広葉樹丸太を購入するようになりました。

その結果、ケヤキのテーブル用一枚板が七枚、カウンター用センノキが六枚、キハダとセンノキの梁材が計三本、囲炉裏用サクラ板が六枚、本棚や幅はぎ用としてトチノキ・ハナノキ・クリ・コナラ・ミズナラ・サクラ・サワグルミなど、デッキやフローリング用のクリなどがたくさん集まりました。

そんな中で、木材の特性である乾燥時の小口割れ、ねじれ、木喰い虫の侵入、カビには悩まされています。製材工場に聞くなどして克服していますが、夏伐りの広葉樹は、昼夜約二ヶ月間扇風機を回しています。割れ止めを使ったり、耳付き板は早めの樹皮除去、製材時の帯鋸の入れ方など、まだまだ研究は必要と考えています。

また、ケヤキのテーブル板は人の力では運べないので、中古のフォークリフトを探し始めました。母親と家内からは、もう置く場所が無い、邪魔だ、長男からは、もっと集めて、と言われています。欲しい方はご連絡ください。

製材を待つ大ケヤキ

自然乾燥中のケヤキ板など

はなしのひろば

緑の交代

四月の風は光り、五月の風は薫る。五月の風には、若葉や新緑の森を吹き抜けてくる香りがする。そんな薫風に誘われて散歩をしていると「春告鳥」のウグイスのさえずりが聞こえてくる。おぼつかないウグイスのさえずりもそろそろ本調子になってきた。「ホーホケキョ」の声にも張りがでてきて、よく響くようになってきた。このさえずり「ホーホケキョ」は他の鳥への縄張りを示し「ケキョケキョケキョ」は、外敵への威嚇だといわれるが、この声を聴くと初夏を感じる。ちなみに「ホー」は息を吸う時、「ケキョ」は吐く時にでる声らしい。そのさえずりに誘われて、遠くの山々に目を移すと新緑や若葉の色で少し明るくなった姿が見える。（常緑樹の緑が新しくなったということは、古い葉は、自然に朽ちていったということなのだろう…。）クスノキは、今年の葉がのびると同時に前の葉が落ちてしまい、クスノキの葉の寿命は、十二ケ月。シイノキの葉は、普通二年といわれる。落葉樹と違って常緑樹のその緑の交代は、人知れずである。特に「しいわかば」「くすわかば」は季語になるほどだから目をひくほど美しい。私たちは、緑の濃淡深浅でその鮮やかな交代を知るのである。

薫風の中の散歩は、五月の心地よさと自然に朽ちていった緑に思いを馳せる時間になったが、この心地よさも長くは続かないだろう。五月の末には、もう入梅や雨の言葉がはいる季語が多くみられるようになる。（都）

表紙の写真

「パパとふたり」

第32回ふくしま緑の写真コンクール金賞
受賞者　門林泰志郎さん（いわき市）
撮影場所：鏡石町

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　水戸　典明
陽光社印刷株式会社
（定価　一〇八円）

お知らせコーナー

平成29年度　福島県もりの案内人及び福島県グリーンフォレスター認定書交付式

◆平成29年度福島県もりの案内人を認定

「もりの案内人」は、県民に森林の重要性を広く伝えるため、四季にふれあい、一緒に学ぶボランティアによる指導者です。３月４日に次の13名の方が認定書を交付され、これで平成９年度からの累計の認定者数は540名となりました。

市町村名	氏　名	市町村名	氏　名	市町村名	氏　名
田村市	青木　一典	大玉村	浅和　文子	三島町	菅家　壽一
郡山市	佐藤　七重	檜枝岐村	城　健史	二本松市	本田　市信
会津若松市	松崎　強	柳津町	目黒　照枝	三春町	武地　優子
下郷町	大竹　昌次	矢祭町	片野　順子	川俣町	佐藤　陽一
本宮市	渡辺　宏一				

〔平成30年度福島県もりの案内人養成講座受講者の募集〕

申込締切　平成30年５月15日㈫（必着）

申 込 先　福島県森林保全課緑化保護担当（Tel　024－521－7441）

◆平成29年度福島県グリーンフォレスターを認定

「福島県グリーンフォレスター」は、県民に林業の重要性や技術を広く伝えるため、森林整備に関する知識や技術等を備えたボランティアによる指導者です。３月４日に次の５名の方が認定書を交付され、これで平成15年度からの累計の認定者数は118名となりました。

市町村名	氏　名	市町村名	氏　名	市町村名	氏　名
小野町	村上　裕章	天栄村	庄田　明博	矢祭町	片野　順子
西郷村	小針　義人	いわき市	門馬　宏		

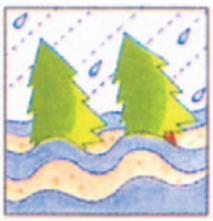
福島県もりの案内人及び福島県グリーンフォレスターには、小・中学校の森林学習やイベントでの森林散歩の講師等をしていただくとともに、６月10日㈰に南相馬市で開催される第69回全国植樹祭において、技術指導スタッフとしてご活躍いただくことになっております。

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹

または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ **GP-35B** グラップルプロセッサ

IWAFUJI INDUSTRIAL CO.,LTD.

傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ
・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新のGP-8コントローラを搭載
・5.7インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
・A,B,C,Dの4コード毎に4種類、合計16種類の測長設定値
・樹種を4種類登録でき、個別に材長調整値の設定が可能

新開発のスタッドローラ(オプション)
・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(鋲)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンス

For the future with forest

イワフジ工業株式会社
www.iwafuji.co.jp

(北関東支店) 福島県郡山市八山田5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支　　店) 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

林業福島五月号 通巻第六四五号
昭和四十二年二月二十四日第三種郵便物認可
平成三十年五月一日発行（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 水戸 典明
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一〇八円
年間購読料一、九〇〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シート

ハチ退治

ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ　TEL. 03(6740)7777
平日 9:00～17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字薪蟻塚 108-1